

叡中 4つの チャレンジ

生徒が主体的で対話的な深い学びができるようにサポートをします。そのために①3年を通して「学び合い」学習を取り入れ、興味深い課題を提示し、「わからない」「教えて」が言える教室環境を作ります。その中で、社会で求められるコミュニケーション能力を育成します。②英語では、アウトプットする機会をたくさん設け、生きた英語の習得を目指します。③ESDを柱とした様々な課題探究活動を取り入れ、これからの時代を生き抜く力の育成を図ります。④学年・クラスの枠を超えた場を設け、プレゼンテーション活動などを通して協働性、寛容性、自己肯定力を育みます。

▶ Challenge 1 「学び合い」による探求学習

「聴き合い」「伝え合い」「学び合い」をテーマに生徒の「知りたい」「わかりたい」「感じたい」欲求を深めていく授業作りを目指しています。そこには生徒の主体性が求められますが、「わからない」「教えて」が言える教室環境を大切にしています。教員は聴く態度の育成と興味ある課題の提示をして全力でサポート役にまわります。



▶ Challenge 2 英語教育の強化

- 基礎力・応用力を身につけるための丁寧な学習指導
- コミュニケーション能力の育成
「ネイティブ教員によるオールイングリッシュ授業」
- iPadを活用したアウトプット活動の充実による「生きた英語力の育成」



▶ Challenge 3 ESDを柱とした校外学習・宿泊体験学習

ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略称で「持続可能な開発のための教育」を指します。1年生では「気づく」、2年生では「つながる」、3年生では「創り出す」というテーマの元、現代社会の問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、地域環境や防災などを探究し、これからの時代を生き抜く力を育みます。知って→覚えて→動いて→考えて『新しい自分への探究をしよう』という目標を掲げています。



▶ Challenge 4 縦割りの学校行事

体育大会や文化祭をはじめ、新歓イベントや本校独自の校外学習「三塔巡拝」など、さまざまな学校行事において、学年の壁を取り外し、縦割りで取り組むことで、協働性や寛容性、自己肯定力を育みます。そこには課題提起、企画、研究、資料作成やプレゼンテーション、フィードバックといった社会に役立つ活動が含まれています。

